

## 第6学年O組 社会科 学習指導案

実施期間 令和〇年〇月〇日

指導者 〇〇 〇〇

### 1 単元の構想「戦国の世から天下統一へ」

子どもの姿	戦国大名の群雄割拠の状態から、織田信長・豊臣秀吉がどのようにして天下統一したのか、地図や年表などの資料で調べ、まとめて理解している。 当時の世の中の様子や人物の働きなどに着目して我が国の歴史の展開に興味・関心をもち、織田信長や豊臣秀吉の歴史的な役割を考えたり現代の出来事と比べたりして生活や社会に生かそうとしている。		
	<b>知識及び技能</b>	<b>思考力、判断力、表現力等</b>	<b>学びに向かう力、人間性等</b>
単元の目標	① キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解できる。 ② 大名の勢力図や年表などをもとに天下統一の様子を調べ、まとめることができる。	① 織田信長・豊臣秀吉の働きや当時の世の中の様子などに着目して我が国の歴史の展開を考え、表現することができる。 ② 天下統一を果たした織田信長・豊臣秀吉の役割について、事象を関連付けるなど適切に表現できる。	① 織田信長・豊臣秀吉の天下統一について、予想をしたり歴史的な役割を伝え合ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
目標に向かうための手立て	○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」 <b>【めあて】</b> 児童が知る織田信長や豊臣秀吉のイメージやエピソードと史実とのズレに出合わせることで疑問や驚きを引き出し、それをもとにめあてに設定することで、意欲的に取り組めるようにする。 <b>【振り返り】</b> 毎回の振り返りが見れるように表にして振り返りを書かせることで、単元を通した問いをどう解決していったのか自分の学びを自認しやすくする。さらに、振り返りのキリスト教の広がりや戦いなど、児童の様々な視点を生かすことで、主体的な学びが継続できるようにする。 <b>【対話】</b> 児童が対話を通して自分の見方・考え方に気付けるように、授業で扱う資料をロイロノートやタモジのシートに貼り、気付いたことを分類・整理できるようにする。		
子どもの実態 30人	①織田信長、豊臣秀吉という人物は28人の児童が知っているが、業績を知る児童は6人である。 ②ノートやタブレットに自力で要点を整理してまとめられる児童は10人ほどである。	①歴史上の人物の働きに着目して、自分の考えを表現できる児童は31人。特に資料を根拠として自分の考えを表現できる児童は18人である。 ②事前調査で織田信長や豊臣秀吉の政治について、天下統一と関連付けて捉えている児童は5人である。	①前単元「室町文化」の学習で、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしていた児童は22人である。

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一を手掛かりに、戦国の世が統一されたことを理解している。 ② 大名の勢力図や年表などをもとに天下統一の様子を調べ、まとめている。	① 織田信長や豊臣秀吉の働きや国の様子に着目し、どのようにして戦国の世が統一されたのか考え、表現している。 ② 織田信長や豊臣秀吉の働きや国の様子に着目し、それらを関連付けて考えることで二人の果たした役割について考え、適切に表現している。	① 織田信長や豊臣秀吉の天下統一やキリスト教の広がりについて、予想したり歴史的な役割を伝え合ったりして、自分なりの疑問や知りたいことをもって学習問題を追究し、解決しようとしている。

指導と評価の計画（7時間取り扱い ●本時 1/7）

課題等	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
戦国の世から、天下統一されたのだろうか。どのようにして	1	1	●長篠の戦い、戦国大名勢力図を見て、当時の国の様子について理解する。	【知】① (発言、メタモジ、振り返り)
		1	○織田信長と豊臣秀吉がどうやって天下統一を果たしたのか、様々な視点から進んで予想する。	【思】①【主】① (発言、メタモジ、振り返り)
	2	1	○織田信長が天下統一に向けて行ったことを調べ、まとめる。	【知】② (ノート、メタモジ、振り返り)
		1	○豊臣秀吉が天下統一に向けて行ったことを調べ、まとめる。	【知】② (ノート、メタモジ、振り返り)
		2	○2人について調べて分かったことを整理して、分かりやすくまとめる。	【知】①【思】② (発言、メタモジ、振り返り)
	3	1	○織田信長と豊臣秀吉、天下統一に向けての働きが、その後の政治に、特に影響を与えたのはどちらか、自分の考えをまとめる。	【思】①【主】① (発言、メタモジ、振り返り)

2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

織田信長や豊臣秀吉らが活躍した当時の戦いの様子、戦国大名の勢力図について話し合う活動を通して、それまでの幕府が支配していた時代から群雄割拠の戦国時代が変わったことを理解することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	10	1 これまでの振り返りから、めあてを設定する。	○室町時代の学習を振り返ろう。 ・足利氏が室町幕府を開き、義満の頃に最も栄えた。 ○室町幕府が倒されてから、次の江戸幕府が開かれるまで何年かかったのでしょうか。 ・5年 ・10年 ・50年	○これまでの学習を想起しやすいよう金閣・銀閣の写真などを見せる。  ○鎌倉幕府が減びてから室町幕府が開かれるまでの年数（5年）と室町幕府が減びてから江戸幕府が開かれるまでの年数（30年）の違いに着目させ、疑問を引き出す。 ○幕府を開くほど全国への支配力をもった人物がいなかったことに気付くよう、勢力図を提示する。	タブレット 電子黒板
		なぜ江戸幕府を開くのに30年かかったのだろうか。	・力をもつ人がいなかった。 ・力をもつ人が多かった。 ・国民がまとまらなかった。		
展開	25	2 長篠合戦図屏風を見て、気付いたことを話し合う。	○この30年の間に起こった戦いの絵です。誰がどうやって戦っていますか？ ・武田と織田がいる ・豊臣秀吉、徳川家康もいる ・銃を使っている ・織田と武田で武器が違う ・柵がある	○資料では特に人物に着目することで、児童がよく知る三人が登場すること、仲間として戦っていたことなどに気付き、追究意欲が高まるようにする。 ○これまでの時代との違いに気付くように、戦い方に着目した発言があれば立ち止まり、全体で共有する。	タブレット 授業支援アプリ  電子黒板
		3 再び戦国大名勢力図を見て気付いたことを話し合う。	○どんなことが分かるかな。 ・意外と織田が小さい ・豊臣がいない ・全国に大名がいる	○大名の数の多さや織田の領土の小ささに関する発言に立ち止まって対話を促していく。そうすることで全国に勢力を伸ばそうと戦う戦国大名がいたこと、群雄割拠の時代になったことや、織田豊臣の天下統一への道のりに興味をもつようにする。	
終末	10	4 学習を振り返る	○江戸幕府を開くのに30年かかった理由を今日の学習を通して、振り返ってみましょう。	◎【知】①幕府が支配していた時代から群雄割拠の戦国時代が変わったことを理解している。(発言・振り返り)	タブレット

# 社会

小学校・社会

## 第6学年〇組 社会科 学習指導案

実施期間 令和〇年〇月〇日  
指導者 〇〇 〇〇

### 1 単元の概観「戦国の世から天下統一へ」

単元終了後の子どもの姿  
・戦国大名の群雄割拠の状態から、織田信長・豊臣秀吉がどのようにして天下統一したのか、地図や年表などの資料で調べ、まとめて理解している。  
・当時の世の中の様子や人物の働きなどに着目して我が国の歴史の展開に興味・関心を持ち、織田信長や豊臣秀吉の歴史的な役割を考えたり現代の出来事と比べたりして生活や社会に生かそうとしている。

ポイント

ポイント

### 課題等

資質・能力を育成するための追究に値する「単元を貫く問い」を設定する。

評価 評価規準の観点や番号と合わせる。

課題等	次	時	主たる学習活動	評価
天下統一されたのだろうか。	1	1	戦い、戦国大名勢力図を見て、当時の国の理解する。	【知】① (発言、メタモジ、振り返り)
	2	2	豊臣秀吉がどうやって天下統一を果たしたのか、様々な視点から進んで予想する。	【思】①【主】① (発言、メタモジ、振り返り)
	3	3	織田信長が天下統一に向けて行ったことを調べ、	【知】②

### 単元(題材)終了時の児童(生徒)の姿

身についた姿や、今後どのようにつながり生かされるかを具体的に想定して書く。

1) 本時の目標  
織田信長や豊臣秀吉らが活躍した当時の戦いの様子、戦国大名の勢力図について話し合う活動を通して、それまでの幕府が支配していた時代から群雄割拠の戦国時代が変わったことを理解することができる。

知識及び技能  
① キリスト教の伝来、織田信長・豊臣秀吉の天下統一の世の中の様子

思考力、判断力、表現力等  
織田信長・豊臣秀吉の働きや当時の世の中の様子などに着目して我が国の歴史の展開を考え、表現する。

学びに向かう力、人間性等  
① 織田信長・豊臣秀吉の天下統一について、予想したり歴史的事象を調べたりする。

ポイント

学びに向かう力、人間性等  
\*3~5年は、②としてよりよい生活や社会に生かそうとする目標を入れる。

子どもの実態	①織田信長、豊臣秀吉という人物は28人の児童が知っているが、業績を知る児童は6人である。	②ノートやタブレットに自力で要点を整理してまとめられる児童は10人ほどである。	①歴史上の人物の働きに着目して、自分の考えを表現できる児童は31人。特に資料を根拠として自分の考えを表現できる児童は18人である。	②事前調査で織田信長や豊臣秀吉の政治について、天下統一と関連付けて捉えている児童は5人である。	①前単元「室町文化」の学習で、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしていた児童は22人である。
--------	--	---	---	---	--

### 本時の評価

本時の目標と評価との整合性をはかる。

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考・ICT機器等
	10	1 これまでの振り返りから、めあてを設定する。	○室町時代の学習を振り返り、足利氏が室町幕府の頃に最も栄えたこと、室町幕府が倒れたこと、江戸幕府が開かれたこと、5年かかったこと、江戸幕府を開くのに5年かかったこと。	○これまでの学習を想起しやすいよう金閣・銀閣の写真などを見せる。 ○鎌倉幕府が滅びてから室町幕府が開かれるまでの年数(5年)と室町幕府が滅びてから江戸幕府が開かれるまでの年数(30年)の違いに着目させ、疑問を引き出す。 ○幕府を開くほど全国への支配力をもった人物がいなかったことに気付かせる。	タブレット 電子黒板
展開		話し合う。	・統を使っている ・織田と武田で武器が違う ・備がある ○どんなことが分かるかな。 ・意外と織田が小さい ・豊臣がいない ・全国に大名がいる	○これまでの学習のように、戦い方は、織田と武田で武器が違う、備がある、織田が小さい、豊臣がいない、全国に大名がいる、大名の数の多さや、大名の勢力の強さに関する発言に立ち寄り、話を促していく。そうする中で、国に勢力を伸ばそうと戦う戦国時代、群雄割拠の時代に変わったこと、織田豊臣の天下統一へ向けて行ったこと、	電子黒板
終末	10	4 学習を振り返る	○江戸幕府を開くのに30年かかった理由を今日の学習を通して、振り返ってみよう。	◎【知】①室町幕府の時代から群雄割拠の戦国時代が変わったことを理解している。	タブレット

ポイント

### 児童(生徒)の実態

具体的な指導の手立てにつながるよう、三つの柱に照らし合わせて「どのような児童生徒が何人いるのか」等、詳細に書く。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① キリスト教の伝来の天下統一の世の中の様子	織田信長や豊臣秀吉の働きや様子に着目し、どのように戦国の世が統一されたのか	① 織田信長や豊臣秀吉の天下統一やキリスト教の広がりについて、予想したり歴史的事象を調べたりする。